

ギリシアから〈翻訳文学賞〉
— 中井久夫氏と志田信男氏に —

山口 喜 雄

ギリシア文学翻訳者協会(Ελληνική Εταιρία Μεταφραστών Λογοτεχνίας)から、外国語によるギリシア文学作品の優れた翻訳紹介に対して贈られる〈翻訳文学賞〉が、この度、中井久夫訳〈カヴァフィス全集〉(みすず書房1988第2版1992)と、志田信男編訳〈セフェリス詩集〉(土曜美術社1988第2版1991)に授与されました。生憎と連絡の手違いからお二人の出席は不可能となりましたが、授与式は1992年1月29日アテネ・コロナキのキュクラデス古代ギリシア美術館において行われ、在アテネ・日本大使館文化アタシェ岩鍋氏が代理出席し、ノーベル賞詩人セフェリスの妹にあたる高名な女流詩人ヨアンナ・ツァーツウ女史の手から文学賞と副賞が授与されました。ギリシアから初めての翻訳文学賞の受賞は、日本全国のギリシア文学研究者への大きな励ましともなり、本誌〈プロビレア〉に換るギリシア語・文学研究会の会員のみなさまとともに、お二人の受賞の喜びを分かち合いたいと思います。

ホメロスやサフォーによってわが国にも古くから知られたギリシア〈詩〉の伝統がいまも生きつづけていることを、優れた日本語訳でわれわれ読者に知らしめて下さったお二人の功績が、ギリシアでも高い評価を受けたものといえます。「アイスキュロスに格別の傾倒を示すセフェリスは、ほとんど他人とは思えないくらいに親近感」を抱いておられた根っからのヘレニストであられる志田信男氏といい、エリティスの〈エーゲ海〉を友人の結婚式の祝賀スピーチに選ばれたことがきっかけとなって、「突然、現代ギリシアの詩が私を捉えた」と云われる精神科医の中井久夫氏といい、溢れんばかりのギリシア詩人への情熱が履を切る如くにペンを走らせて結実されたご訳業でした。

授賞通知状の署名者の一人で、〈マリアの水都(ヒロシマ)紀行〉の作者として、知日派文人でもあられるギリシア・ペンクラブ副会長のアシマコプロス氏は、1987年国際交流基金の招きで来日された際、筆者に日本・ギリシア文学交流の推進を計ってゆきたいとの意向を示され、関本先生にお会い

いただいた方でした。今回のこの、ギリシアからの授賞は、アテネ大学留学中の高橋りえこ氏の手によってギリシア・ペンクラブに寄贈された経緯と考え合わせ、アシマコプロス氏がギリシア文学翻訳家協会事務局長として大きな役割を果たされたのではないかとひそかに想いを馳せた次第です。